地質ニュース

特集號 1953

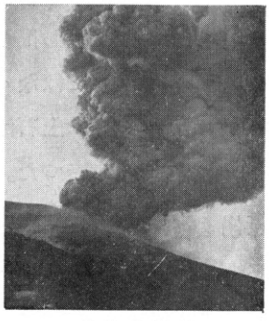
地質調査所

日本の災害

なぜ日本には災害が多いか

西日本・近畿の水害，箱根の山崩れ等々と打続く災害に，次はどこに何が起るであろうかと戰々兢々とならざるを得ないのが現在われわれの心境であろう。國敗れて山河もまた荒廃の一途をたどりつつあり災過はますます猛威を奮つて襲いかかる。一体これは何に基因するのか，またこれに対処する道はどうあるべきか，再考を要する時ではなかろうか。

由来わが國土は災害が起りやすいような條件下にある。四つの島が**環太平洋地域**と称する地球上の**弱帯**の中に完全に含まれていることは周知の事実で，弱帯のおかげで日本という國が生れたとも言い得る。すなわち地球創造の初めから，この弱帯には幾度となく地殼変動が起り，土地は褶曲し，断層を作り，海面上に突き出た一端は隆起して，峻險な山脈を作つたと説明されている。また弱帯なるがゆえに地下深所の高熱な岩漿は，ここに熔岩を噴出して活火山を作り，かくして無数の火山脈は日本という火山列島をこしらえあげたのである。



櫻島の爆發

このように地球上の弱帯地域に生れた日本が何かにつけ事故を起しやすい環境にあるのは理の当然であろう。またわが國は古来瑞穗國と呼ばれる程水田が発達し，水には誠に惠まれた國と言うべきである。

ただし**台風**と称する他に見られない独特の気象が太平洋上に発生すると，これが本土を通過するかどうかによつて，著しい影響を與えるばかりでなく蒼田変じて泥海となる惨劇を繰返すこともある。

とにかく日本における水害は，降雨量が多いのに河川は短く勾配が強く，急激な降雨に対して貯水施設のないことが主要な原因の一つでもある。

日本には地震・津波・火山爆発・河川の氾濫等天災と呼ばれる災害の他に，地辷り・山崩れ等さして大規模なものではないにせよ局部的な災害が頻発して起つている。これらも褶曲とか破碎帯とか，あるいは噴気・温泉による地盤の軟弱地などで，水に対する抵抗力が減退すると生じるものであつて，いきおいその防禦対策もそれに應じ得るだけの融通性に富んだしつかりしたものでなければならない。